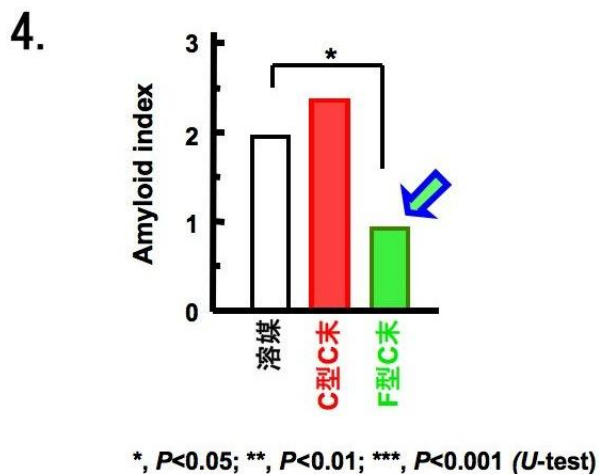
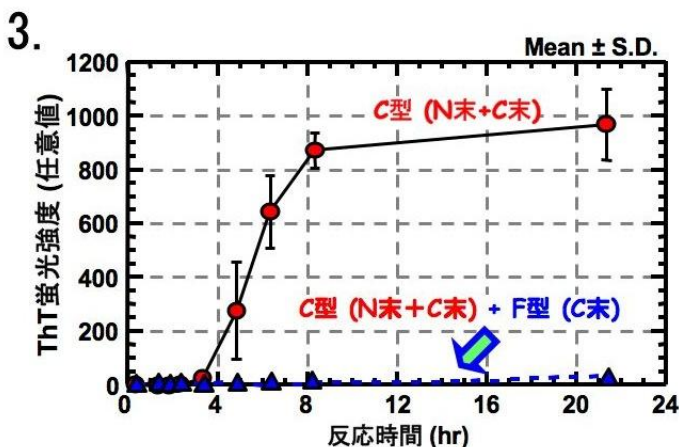
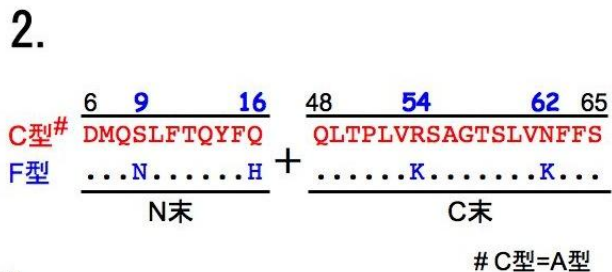
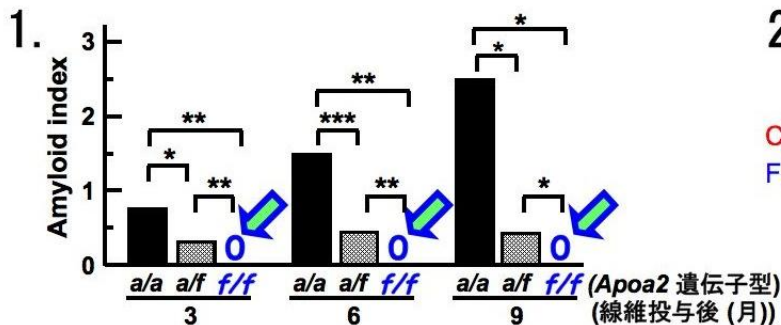


# マウスAApoAIIアミロイドーシスの発症は マウスF型apoA-IIのC末ペプチドで軽減できる

研究分担者： 信州大学医学系研究科加齢適応医科学系加齢生物学 樋口京一



## 解 説

1. アポリポタンパク質A-II (apoA-II) の遺伝子型がF型ホモ体 (*f/f*) では、アミロイドーシスを誘発させてもアミロイド線維が全く沈着せず (矢印)、ヘテロ体 (*a/f*) も重症化しなかった。
2. マウスapoA-IIのアミロイド線維形成コア領域を示す。F型apoA-IIは、この領域に4ヶ所のアミノ酸置換が存在する。
3. アミロイド線維の形成が可能なC型apoA-IIの合成ペプチド (N末+C末) の重合反応系にF型C末ペプチドを共存させると、線維形成が阻害された (矢印)。
4. アミロイドーシス高発症マウスにF型apoA-IIのアミノ酸組成を持つC末ペプチドを与え続けると、アミロイドーシスの誘発による線維沈着が軽減された (矢印)。

F型C末配列部分の線維形成抑制作用については分子メカニズムを解明する必要があるが、線維形成コア領域に着目した本手法は、アミロイド線維の形成機序の解明や発症抑制策の開発に応用可能な新たな知見を与えられらる。